

事務所移転のご挨拶

(株)中央税法総合研究所
茂木経営会計事務所
所長 茂木 健次

秋もたけなわになりましたが、皆さまにはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。さて、今春以来建設を進めてまいりました当社事務所がこのほど完成し、業務開始の運びになりました。これもひとえに皆さまの温かいご支援とご厚情の賜物と深く感謝申し上げます。当社は昭和54年4月、天川大島の事務所を振り出しに、平成2年8月に17号線と50号線が交わる真ん中のビルに移転し、バブルの絶頂期からその崩壊、その後の不安定期をそれぞれ経験し、これを凌いでまいりました。この30年間、なにかと構想を練ってきましたが、このたび関係者のご協力を得て、やっとのことで積年の思いが実現する運びになりました。私としては顧問先の皆さまに、たとえ柱の1本、タイルの1枚でも請負っていただく心積もりでしたが、諸般の事情でその実現が困難になりましたことを改めて深くお詫び申し上げます。今の時代は経営者だけではなく、多くの人々の心が疲れていると感じています。こんな混沌とした時代だけに、心を癒し、癒された心で経営にあたらなければ、立派な経営はできないと考えています。病んですさんで乱れた心で経営すれば、企業は乱れること必定です。ギスギス、コセコセとしてこの人生を無駄に生きるか、それとも有難くも勿体ない1回限りの人生を、ゆったりと悠々として生きるのか、多くの方が後者であって欲しいと願っています。私も微力ではありますが、その実現に向けて一歩一歩、着実に努力する覚悟です。私も還暦を迎えて、いまさら事務所移転でもあるまいと思いましたが、逆に還暦だからこそ若いときには見えないものが見え、聴こえなかったことが聴こえるようになり、できないことが出来るようになりました。人生には遅いということはなく、遅いほうが利点も多いこともあります。「人生は還暦からが本番です。その前は準備期間で、やっと待ちにまったその時がきた」という心境です。ところで、心を癒す方法はいろいろあります。人間の進化の元は耳と言われますが、水琴窟(すいきんくつ)の幻想的な音色で心を静め、癒された心で経営にあたれるように、水琴窟経営道場を新たに設けたほか、21世紀の堅実な企業経営を目指し、先端の経営管理を継続的に実施できる経営教室や大会議室を併設し、長期にわたって経営革新が可能な態勢を整えました。無論、本業の税務会計業務に万全を期すことは当然ですが、より一層その精度を高めるとともに、当社創業以来の基本理念の一つ「完全申告是認体制」を所員と一丸になって構築していく所存です。経営環境はなお厳しい折から事務所開設の行事等は省かせていただきますが、新事務所は顧問先皆さまのものです。なにとぞ皆さまの積極的なご活用とご鞭撻を切にお願いし、ご報告を兼ねてご挨拶といたします。

9月の大企業(資本金10億円以上)の景況判断は、主要指標の製造業で前6月調査より3ポイント回復のプラス24になり2期連続して上昇した。これは04年9月の26以来の高水準で、円安が後押ししたとみられる。製造業のうち素材業種は3ポイント上昇してプラス21になり、鉄鋼や非鉄金属が大幅に改善。加工業種は2ポイント上昇してプラス25になった。一方、非製造業は天候不順や個人消費の伸び悩みなどで、前6月調査と横這いのプラス20にとどまった。

業種別判断

前回、製造業は原油高など素材価格の高騰で素材業種は悪化したが、今回の調査では製品価格への転化が進み、紙・パルプ以外は殆ど業種が改善した。

加工業種は、好調な輸出や設備投資を背景に一般機械、電気機械、精密機械が着実に上昇したが、自動車はやや低下している。

12月までの先行きは、製造業全体で3ポイントの低下。素材業種では木材・木製品、紙・パルプ、化学が改善を予測しているが、加工業種は全般に低下し、やや慎重な判断になった。

一方、非製造業は、全体として横這いのプラス20になったが、その中で不動産や対事業サービスなど改善が目立っている。先行きは個人消費の回復期待から小売や個人サービスなどが改善を予測している。

売上と収益計画

今年度の売上は、前年比製造業3.7%、非製造業2.7%とそれぞれ増加を計画。また売上高対経常利益率は製造業6.34%、非製造業3.90%と高収益を予測している。

設備投資計画〔含む土地投資〕

景気回復を牽引してきた設備投資だが、06年度も前年度に比べ製造業が16.9%、非製造業が8.5%とそれぞれ大幅な増加を計画している。

雇用状況

製造業が9月のマイナス2から先行きはマイナス6。非製造業は同マイナス13からマイナス16とバブル期並の人手不足感を予測している。

大企業の景況判断			
業種	2006年		
	6月	9月	12月予測
製造業	21	24	21
繊維	5	6	9
木材木製品	0	8	25
紙・パルプ	7	0	7
化学	16	16	20
石油・石炭	15	25	25
窯業・土石	15	17	17
鉄鋼	39	53	51
非鉄金属	28	41	28
食料品	9	8	4
金属製品	9	5	7
一般機械	46	52	44
電気機械	23	28	22
造船・重機	0	0	0
自動車	35	30	27
精密機械	25	30	25
非製造業	20	20	21
建設	3	4	5
不動産	39	45	39
卸売	22	21	22
小売	14	15	19
運輸	17	15	14
通信	28	28	25
情報サービス	42	42	47
電気・ガス	11	14	5
対事業サービス	14	20	24
個人サービス	9	13	21
飲食店・宿泊	24	18	16
リース	29	26	28
大企業2,368社 回答率99.2%			

中小企業の景況感は、製造・非製造ともに低下・・・

9月の中小企業(資本金2千万円以上1億円未満)の景況判断指数は、製造業が1ポイント悪化してプラス6。非製造業は2ポイント悪化のマイナス8になり、原材料費の上昇を容易に販売価格に転嫁できにくい中小企業は、大企業に比べて景況感の格差は拡大している。12月は製造業が1ポイント上昇してプラス7。非製造業はふたたび1ポイント低下のマイナス9を予測している。

	中小企業選択肢別社数構成比%			
	製造業		非製造業	
	6月	9月	6月	9月
よい	25	25	16	15
さほど良くない	57	56	62	62
悪い	18	19	22	23
よい-悪い(指数)	7	6	6	8

業種別の景況判断

製造業のうち素材業種が横這いのマイナス4になり、繊維や石油などが悪化した。加工業種も全体で2ポイント低下のプラス11になり、食料品や電気機械を除くほとんどの業種が景況感を後退させている。

12月までの先行きは製造業全体で1ポイント改善してプラス7。素材業種は石油や非鉄金属などが不透明感を滲ませているほか、加工業種では一般機械や自動車が増重な判断をしている。

一方、非製造業は、通信が9ポイント改善してプラス6に回復したほかは、殆んどの業種が悪化した。先行きは通信、情報サービスなどが大幅な改善を見込むほかは、依然として厳しい判断になった。

設備投資計画 06年度は前年度に比べて製造業3.3%、非製造業マイナス5.4%の計画で、中小企業全体ではマイナス3.1%の減少計画。

売上高と収益計画 06年度の売上高は前年度に比べ全産業で1.1%増を見込むほか、経常利益率は、製造業3.69%、非製造業2.44%とほぼ前年並みの計画。

雇用と資金繰り判断 中小企業も人手不足感が強まり全産業の雇用判断は、不足超過の8、先行きは不足超11と不足感が強まっている。

資金繰りは、ふたたび「苦しい」超が2になり、借入金利の動向判断は、日銀の追加利上げなどを懸念して、現在の46から上昇とする割合が60に増加している。

業種	中小企業の景況判断		
	2006年		
	6月	9月	12月予測
製造業	7	6	7
繊維	25	30	28
木材・木製品	21	17	15
紙・パルプ	5	5	4
化学	13	8	14
石油・石炭	15	19	23
窯業・土石	26	24	19
鉄鋼	35	35	36
非鉄金属	28	30	22
食料品	9	8	4
金属製品	18	18	23
一般機械	32	28	24
電気機械	13	15	16
造船・重機	18	16	17
自動車	25	23	17
精密機械	20	15	16
非製造業	6	8	9
建設	19	19	25
不動産	13	10	13
卸売	2	2	1
小売	15	16	12
運輸	6	8	9
通信	3	6	29
情報サービス	24	13	19
電気・ガス	15	18	23
対事業所サービス	8	0	1
個人サービス	3	2	3
飲食店・宿泊	8	11	13
リース	7	7	1
全国・中小企業	4,838社	回答率 98.3%	

全国と群馬の経済動向

【県内の経済動向】(大型小売店) 8月の売上は前年水準を下回った。衣料品は低調だが、食料品、身の回り品は堅調。なお秋冬物婦人衣料は堅調な出足。**(家電量販)** 8月は前年水準を下回った。薄型テレビや洗濯機は好調だが、パソコン等は低調に推移。**(乗用車販売)** 7、8月ともに前年下回ったが、軽乗用車は前年を大幅に上回った。**(住宅着工)** 7、8月は分譲の減少で前年を下回った。**(公共投資)** 7月は前年水準を上回ったが、8月は県などの発注減少で大幅に低下した。**(企業生産)** 自動車は軽自動車国内販売好調、一般車も輸出の増加で高水準の生産。電気機械は、デジタル家電向けの半導体を中心に生産水準を引き上げている。一般機械も高水準の生産を続けている。

(雇用) 7、8月の有効求人倍率は、1.39倍と高水準。雇用環境の改善で雇用保険の受給人員は、7月8.5%、8月8.8%と前年水準を下回った。

(日銀前橋支店:金融経済概要から抜粋)

	生産関連指数				雇用		公共投資			
	鉱工業生産指数		大口電力使用量		有効求人倍率		公共工事請負高			
	左・前月比	右・前年同月比	前年同月比				前年同月比			
	全国	群馬	全国	群馬	全国	群馬	全国	群馬		
平成17年6月	1.6	0.2	0.7	8.9	0.5	3.5	0.96	1.34	4.7	20.7
7月	1.2	2.3	4.4	7.1	2.3	5.8	0.97	1.42	12.7	17.0
8月	1.1	1.5	1.0	4.0	-0.1	0.0	0.97	1.56	0.2	16.2
9月	0.4	1.2	2.1	0.9	0.3	0.8	0.97	1.41	4.1	10.0
10月	0.6	3.0	3.3	4.0	0.8	0.3	0.98	1.46	1.4	17.6
11月	1.5	3.4	9.5	8.5	0.3	2.8	0.99	1.46	0.9	2.7
12月	1.3	3.5	1.8	7.1	2.3	1.3	1.03	1.52	4.7	3.6
平成18年1月	0.1	2.7	2.1	5.7	0.7	1.0	1.03	1.59	6.8	64.0
2月	1.2	3.9	5.6	1.3	0.4	2.8	1.04	1.62	8.3	13.5
3月	0.2	3.1	2.5	4.5	0.1	2.8	1.01	1.53	15.4	5.5
4月	1.4	3.6	0.2	3.5	0.8	1.3	1.04	1.42	17.3	5.6
5月	1.3	3.9	2.6	9.9	2.0	1.8	1.07	1.37	0.7	7.4
6月	2.1	5.0	2.0	6.1	1.5	1.7	1.08	1.39	13.2	21.7
7月	0.9	5.1	0.6	3.1	2.2	1.6	1.09	1.39	4.3	8.8
8月	1.9	6				1.9	1.08	1.39	13.9	27.3
	個人消費関連指標									
	乗用車登録台数(前年同月比)				大型小売店売上		家電量販店売上		新設住宅着工数	
	群馬の車種別内訳		前年同月比		前年同月比		前年同月比		前年同月比	
	全国	群馬	登録車	軽乗用車	全国	群馬	全国	群馬	全国	群馬
平成17年6月	8.3	7.5	6.9	9.3	0.0	1.8	1.8	2.1	2.4	11.8
7月	2.0	3.0	6.5	6.6	0.4	1.6	0.3	2.9	8.3	9.4
8月	0.3	2.3	6.4	9.3	1.3	1.0	-	5.6	7.0	7.7
9月	0.4	1.0	1.2	7.4	0.9	0.0	-	1.4	0.2	12.3
10月	1.6	1.8	4.5	5.2	1.9	0.7	-	10.1	9.1	8.5
11月	6.6	2.1	6.9	10.3	1.8	2.9	-	4.5	12.6	0.6
12月	12.4	14.3	14.8	12.8	0.7	2.4	-	7.5	0.9	33.7
平成18年1月	0.1	2.9	0.0	10.2	2.3	1.4	-	0.4	2.2	29.8
2月	0.7	0.0	2.9	7.3	1.6	0.0	-	2.5	13.7	18.2
3月	0.5	0.6	1.8	7.2	0.1	0.4	-	1.8	3.9	33.5
4月	5.0	6.0	13.5	11.7	0.5	0.8	-	2.4	15.0	3.0
5月	6.4	6.8	11.5	4.9	0.9	0.2	-	7.2	6.7	15.8
6月	2.8	2.1	3.8	17.0	0.5	0.3	-	6.1	4.7	20.5
7月	6.2	3.1	5.5	24.0	1.0	0.0	-	2.0	7.5	6.4
8月	2.5	8.4	1.3	31.5	0.5	1.4	-	1.9	1.8	5.3

注:「大型小売店売上」は新設店ベース。

〔前号から・・・〕

経営とは何ぞや

不安や心配があるから生きられる

経営とはその職業を通じて自己を習うことなり

自己を習うとは自己の職業を通じて経営理念を実践し、実現していくことなり

自己を習うとは自己の職業を通じて進化と向上、創造の中に生きることなり

経営とは、その職業をもって「自己のために」進化と向上、創造に順応しつづけることだ。それが「お客のために」なることである。そういうときには、自分とお客との間には一線の区切りはない。自分とお客とは一如になっている。生死あることなし、怖れることなし

1、不安や心配があるから生きられる

リスクがあるから安心の経営がやれる

赤字だからこそ安心の経営が続けられる

人間や生きものには不安の心と心配の心が備わっている。この不安は神様が与えてくれた贈り物だ。不安があるから安心して生きられるのだ。

もしも不安する心がなかったら人間はすぐに死んでしまう。トラに喰われ、熊に喰われて死んでしまい、人間なぞこの世に存在していない。不安な心があるからこそ弱いものも安心して生きてこられた。

この不安な心を味方にしよう。これが心を儲けるということだ。

リスクも同じだ。リスクを感じなければ事業経営者はたちまちに破産者になってしまう。リスクがあるからこそ注意深く、用心を重ねて、慎重に利益を蓄えていくようになる。成功する経営者は大きな不安の心を抱き、大きなリスクを抱いている経営者である。不安や心配、リスクを味方にしている経営者のことである。

事業経営者で最も躓きやすいところは軌道に乗って天下を取った気になっているときである。

イケイケバンバンのときである。そういうときは不安や心配、リスクが目に入らないからである。目に入っても敵対してしまうからである。その次に待っているのは破産という絶望であることを知らないからである。

積極心とは不安の心、心配の心を否定して排除するのではなく、その心を肯定し、味方にし、抱き込んだうえで「シ - ンとした絶対しじまの気」をいうのだ。

2、赤字でも倒産しない

不安があるうちは倒産しない

赤字の会社は赤字であることを知っている。倒産の不安を知っている。だからこれ以上は赤字を出さないと努力する。しかし、結果は赤字となってしまう。

再び、赤字から脱却しようと懸命に努力する。しかし、結果は赤字となる。しかし、倒産はしない。破産もしない。

なぜならば赤字会社はそうたやすくには借金ができない。借金できないから投資ができない。投資の失敗はない。断崖の上を歩いているようなもので返って失敗がない。足元を見て努力すれば開運される。創意工夫すれば明日が開ける。

やることはいっぱいある。それらを一つ一つやっていけばよい。

赤字会社でも戦略、戦術、チェックの循環サイクルは必要だ。赤字会社こそむしろ、おおいに戦略、戦術、チェックのシステムが必要なのだ。なぜならば、新しい借金はできない。すでにある借金は返済しなければならない。

資金は逼迫している。だからこそ戦略、戦術、チェックのサイクルが必要なのである。赤字で倒産するのは他の原因が多い。創意工夫の努力をやめたときとか、不安を感じなくなったときである。

もし赤字会社がすべて倒産、破産するならば日本国中倒産だらけ、破産だらけになってしまう。倒産するのは赤字だからではない。身の丈を超えた経営をやったり、不用意に立ち上がったたり、一貫目しか持ち上げる体力しかないのに10貫目を持ち上げようとするから不渡りをつかんだり、手に負えない大きな損失をつかむ結果倒産するのである。

むしろ、黒字会社のほうが危ないのである。黒字会社は倒産の不安を知らないから。不安があるのは安心。不安がないのは危険。まあまあ赤字は破産しない。へたな黒字や伸びている時のほうが危ない。

不安の基と闘え

不安の基と闘え。闘い抜け。闘い続けて敗れたっていいではないか。闘うところに人生の意義がある。地震の発生の多い人は、闘うためにはそれなりの軍資金を準備しておく。地震の発生の少ない人は最低限の軍資金があればよい。

金の問題は金の基因と闘い抜くのだ。命まではとられないから安心して闘え。病気の問題はその基因と闘い抜くのだ。金で解決するしかない場合はその基因となるものと闘いながら金を充当する。

病気になった場合はその遺伝となったものと闘いながら薬を当てる。いずれにせよ「その遺伝となるものと闘い続ける」が心までは悩ませない。心はいつもルンルン気分である。

3、不安の効能

ほんとうの人間とは、宇宙の真理を知って自主自立、いかなる盤根錯節の大事に直面しようと正々堂々として、力と勇気と信念で生きていく人間をいう。

中村天風

この言葉の裏には不安の概念が秘められていると思う。不安の心を大切にしよう。不安や痛みこそ自然が与えてくれた最高の贈り物、宇宙の真理だ。

赤字は事業の痛み、その痛みがあるから倒産しないのだ。不安は力と勇気と信念の源。不安があるから力と勇気と信念がでてくるのだ。

不安を味方にして生きていく、それが真の積極心である。不安があるから仕事をうまくやろうとする。不安があるから努力する。不安があるから慎重になる。不安があるから注意する。不安があるから先見力と洞察力がでてくる。

不安があるから戦略や戦術やチェツクがでてくる。不安があるから準備する。不安があるから覚悟する。不安や心配や取り越し苦労、これを味方にする。シャカやダルマも皆同じ。不安こそ安心の母だ。不安は安心の効能だ。

不安は進化と向上、創造の源だ。不安があるから進化と向上、創造がある。不安があるから安心がある。不安のないところ安心はない。死の不安があるからこの世の生を一所懸命に生きる。病気の不安があるから健康に留意する。リスクの不安があるから注意し、準備し、慎重にリターンを考える。

赤字の不安があるから倒産しない。不安がなくなったら倒産する。不安は味方にしてこそ価値がある。不安を敵にまわせば価値はない。不安を敵にまわすとは、不安のための不安になること。いたずらな不安、無用の不安を不安すること。そういう不安はいらない。最終的には不安というものはなくなるものだと思う。

どこまでいっても不安はついてくる。生きているかぎりには不安からは逃げられない。なぜならば不安は自己防衛本能だから。

自己防衛本能の強い人は不安も強くでる。自己防衛本能の弱い人は不安も弱い。だから不安は味方にして一緒に生きることだ。不安は不安として、必要なものだと肯定して生きることだ。

4、不安はどこからきて、どこへいくのか

生きているかぎりには不安や心配や怖れがある。これらはどこからきて、どこへいくのか？不安はそれじたい、生きとし生きるものにとって、神（宇宙の大生命）から与えられた防衛本能である。なくてはならないものである。これなくしては生きられないものである。

人間の命において不安の原因はどこにあるのか？生きていること、老いること、

病気になること、死ぬこと、明日への不安、将来への不安、孤独への不安、愛の不安。

四苦八苦これが不安の原因である。これらの不安を取り除くにはシャカの教えを学ばなければならない。すなわち、無明を明らかにすることである。不安を味方にしながら消極的に生きるか、積極的に生きるか、二つに一つだ。

人生に背中を向けて、逃げて背中を撃たれるよりも、前に出て肚を撃たれることを選べ。守るべきものはなし、一切は空なり。人間本来無一物なり。ここに至れば不安は解消される。

5、経営の不安はどこからきて、どこへいくのか

リスクは事業の調味料

事業経営していれば様々なリスクがある。不渡りをつかまされるリスク、在庫の売れ残りのリスク、投資失敗のリスク、研究開発失敗のリスク、倒産のリスク等々数え上げればキリがない。しかし、このリスクを勘定に入れて、このリスクから逃げないでリスクを乗り越えていくのが事業経営だ。成功の裏にはリスクはある。

経営の失敗

経営の失敗これが経営上の究極的なリスクであり、不安であり、怖れである。失敗したらどうしよう、その先はどうなるのか、地獄の先か、さあ、ここからだ。世間の現象の中には経営の失敗はある。

しかし、一段上の見方からは経営の失敗というものはない。従って、経営の成功ということもない。また、成功の経営とは失敗しない経営のことをいう。すなわち、一段上の見方からは失敗の経営はないのだから経営はすべて成功の経営といえる。

一段上の見方からすれば経営には成功も失敗もない。進化と向上、創造の役目を終えたか、継続中かということである。

金を残した、失ったということはある。世間の見方から見れば、金を残した者が成功の経営者であり、金を失った者が失敗の経営者となる。

一段上の見方からすれば、金を残した者も、失った者も同じこと。その時、その者の、一事の出来事、現象にしかすぎない。

不易なるものではない。何十年とは続かない。事業とは膨張しながらある限界を超えたらパンとハネテ消滅するか、縮小しながらある限界を超えたら一気に衰退して消滅するかどちらかだ。人の一生は生まれて死ぬ。事業もまた同じ。生じて消滅する。その間は生きていけばよい。その間は事業をやっていればよい。

その間は宇宙の大生命力の中で、天地のエネルギーを感じながら積極的に生きていけばよい。問題は金の無い者の不安をどうするかだ。金運金力を磨いて、肚をくくるしかない。墮ちるところまでとことん墮ちるか、盤根錯節の困難を乗り越えるか二つに一つだ。

何かあるのが人生だ、いかに盤根錯節の困難あろうとも、それを乗り越えていくのが真の人生である。しかし、この人生には浮世の楽しみも多々あることを忘れるなかれ!!

6、悩むときはトコトン悩んでいる

悩むときはひたすら悩め。心配するときはひたすら心配している。

良寛禅師も書いている「災難にあうときは災難にあうがよからう。これ災難から逃れることなり」と。「直視する」これが悩みから逃れる方法だ。これが諸法実相だ。そしてどんな悩みも解決しないものはないということを忘れないことだ。

悩むときは真剣に悩むこと。悩みの原因を真正面から受け止めること。悩みからは逃げない。悩みを忘れようとしな。悩みは忘れられるものではない。忘れられる悩みはたいしたことないからほっとけばよい。忘れられない重大な悩みはトコトン取り組むことだ。悩みに取り組むのではなく、悩みの原因に取り組むこと。ここが重要。悩みそのものには執着しない。悩みの原因に取り組む。ここが急所だ。

その結果、解決できるものは金がかかろうがなにしようが解決するし、解決できないものは時間が解決してくれる。このシャバ世界にあって解決できない悩みなどない。トコトン悩みの原因と取り組んだら解決は自然についてくる。

その後は悩むな、いつまでも心配するな、不安を引きずるな、持続させるな。
どんな悩みも心配も不安も必ず解決するのだから。
あとはルンルン気分で生きていけばよい。

(以下、次号につづく)

新事務所のご案内

10月16日(月曜日)より新事務所で業務を開始します。

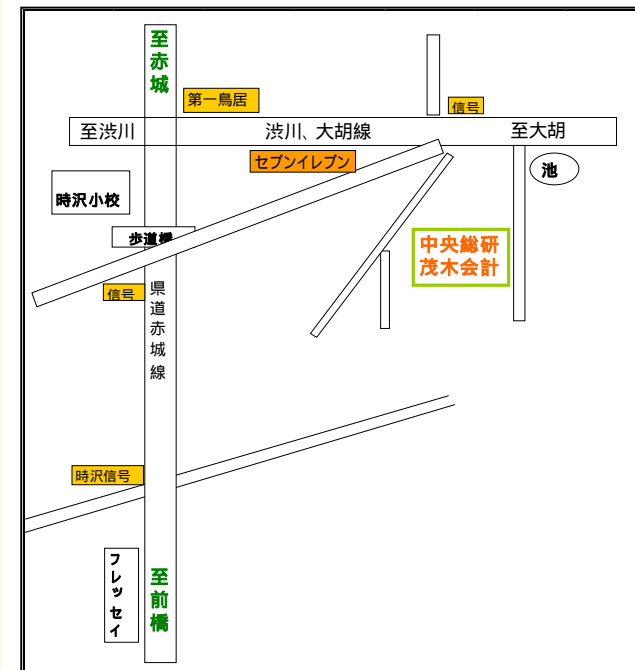
新事務所の概要

事務所のほかに、次の施設を整えました。

- 経営相談室 先端の経営戦略と情報を駆使して皆さまの経営をサポートします。お気軽にご相談ください。
- 大会議室 大勢の皆さまの研修や会合などにご利用いただきます。
- 経営道場 「心を癒し、癒された心で経営」できるよう、水琴窟を設置しました。ぜひ体験のほど!!

所在地 勢多郡富士見村小暮 583 番地
電話番号 (027) 288-8085 (代)
FAX 番号 (027) 288-8107

新事務所への略図



発行日 2006年10月3日
発行者 (株)中央税法総合研究所
代表者 茂木健次
所在地 前橋市本町1-4-4
損保ジャパンビル 6f